繊維製品の取扱いに関する表示記号

・現行 JIS から単純に記号の置き換えはできません。
・処理記号の詳細は、JIS の原文通りではなく表現を一部変更している箇所があります。

現行（JIS L 0217）

6.ドライクリーニングの記号

（ドライクリーニング）

401

402

403

（ウエットクリーニング）

（該当なし）

新規格（JIS L 0001）

6．商業クリーニング処理の記号

【基本記号】

◆円で表す
・内側のアルファベットで処理の種類を示す
「P」はパークロロエチレン溶剤・石油系溶剤両方可能
「F」は石油系溶剤のみ可能
「W」はウエットクリーニング（水洗い）
・アンダーバーは弱い処理、２本は非常に弱い処理の付加記号
・・・『マイナスは弱い！』
・「×」は処理できない

（ドライクリーニング処理の記号）

620	621	パークロロエチレン及び記号Ⓕの欄に規定の溶剤でのドライクリーニング処理a)ができる。 620：通常の処理 621：弱い処理
610	611	石油系溶剤（蒸留温度 150℃～210℃、引火点38℃～）でのドライクリーニング処理a)ができる。 610：通常の処理 611：弱い処理
600	ドライクリーニング処理ができない。	

注 a)　ドライクリーニング処理は、タンブル乾燥を含む。

（ウエットクリーニング処理の記号）

710	711	712	ウエットクリーニング処理ができる。 710：通常の処理 711：弱い処理 712：非常に弱い処理
700	ウエットクリーニング処理はできない。		

現行（JIS L 0217）

1.洗い方（水洗い）の記号

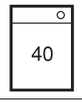
101

（該当なし）

102

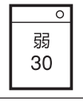
（該当なし）

103



104

105



106

107

新規格（JIS L 0001）

1．洗濯処理の記号

【基本記号】

◆洗濯機も手洗いもおけ（桶）の形に統一
・記号の中の数字は洗濯液の上限温度（℃）　手洗いは４０℃
・アンダーバーは弱い処理、２本は非常に弱い処理の付加記号
・・・『マイナスは弱い！』
・中性洗剤使用やネット使用は記号とは別に、付記用語にて指示

190			液温は 95℃を限度とし、洗濯機で通常の洗濯処理ができる。
170			液温は 70℃を限度とし、洗濯機で通常の洗濯処理ができる。
160	161		液温は60℃を限度とし、洗濯機で洗濯処理ができる。 160：通常の洗濯処理 161：弱い洗濯処理
150	151		液温は50℃を限度とし、洗濯機で洗濯処理ができる。 150：通常の洗濯処理 151：弱い洗濯処理
140	141	142	液温は40℃を限度とし、洗濯機で洗濯処理ができる。 140：通常の洗濯処理 141：弱い洗濯処理 142：非常に弱い洗濯処理
130	131	132	液温は30℃を限度とし、洗濯機で洗濯処理ができる。 130：通常の洗濯処理 131：弱い洗濯処理 132：非常に弱い洗濯処理
110	液温は、40℃を限度とし、手洗いによる洗濯処理ができる。		
100	洗濯処理はできない。		

現行（JIS L 0217）	新規格（JIS L 0001）
2.塩素漂白の可否の記号	**2．漂白処理の記号** 【基本記号】 ◆三角形で表す ・三角形のみは塩素系、酸素系漂白の両方ができる ・斜線２本は塩素系漂白ができない。酸素系漂白はできる ・「×」は漂白処理はできない

201	220	210

220：塩素系及び酸素系漂白剤による漂白処理ができる。

210:酸素系漂白剤による漂白処理ができるが、塩素系漂白剤による漂白処理はできない。

202	200

漂白処理はできない。

3.絞り方の記号	
501	502

3．絞り方の記号

（該当なし）

4.干し方の記号	4．乾燥処理の記号
	【基本記号】 ◆正方形で表す ◆正方形の内側に〇はタンブル乾燥 ・〇の中の「●●」は高温、「●」は低温の付加記号 ・・・『数が多い方が高い』 ・「×」はタンブル乾燥できない ◆正方形の内側にたて線、よこ線は自然乾燥 ・たて線は脱水後つり干し、よこ線は脱水後平干し ・２本線は脱水を行わないぬれつり干し、ぬれ平干し ・・・『線が多いと水分で重い！』 ・角の斜線は陰干し　・・・『／ひさしで日陰を！』

（タンブル乾燥）

（該当なし）

（タンブル乾燥処理）　＊家庭でのタンブル乾燥処理に適用する記号

320	310

洗濯処理後のタンブル乾燥処理ができる。

320：高温乾燥：排気温度の上限80℃

310：低温乾燥：排気温度の上限60℃

300

300：タンブル乾燥処理はできない

現行（JIS L 0217）	新規格（JIS L 0001）
（干し方）	（自然乾燥処理）

601	602

603	604

440	445	430	435

440：つり干し乾燥がよい

445：日陰でのつり干し乾燥がよい

430：ぬれつり干し乾燥がよい

435：日陰でのぬれつり干し乾燥がよい

420	425	410	415

420：平干し乾燥がよい

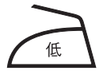
425：日陰での平干し乾燥がよい

410：ぬれ平干し乾燥がよい

415：日陰でのぬれ平干し乾燥がよい

5.アイロンの掛け方の記号	5．アイロン仕上げ処理の記号
	【基本記号】 ◆アイロンの形で表す ・「●●●」は高温、「●●」は中温、「●」は低温の付加記号 ・・・『数が多い方が高い！』 ・「×」はアイロン仕上げ処理はできない ・当て布の記号はなし　記号とは別に付記用語で指示

301	302

303


304

530	520	510

アイロン仕上げ処理ができる。

530：底面温度 200℃を限度

520：底面温度 150℃を限度

510：底面温度 110℃を限度として
スチームなし

500

アイロン仕上げ処理はできない。